

お年寄り、障害者と共生目指す

来月、国に申請へ

道内一番乗り「夢持てる街に」

帯広電信通り商店街振興組合（32店、長谷渉理事長）は16日、国の地域商店街活性化法に基づく補助金の取得に向け、「活性化事業計画」をまとめた。3年計画で、2011年度は空き店舗を活用した相談所やスイーツ販売店などの開設を盛り込んだ。2月中旬、北海道経済産業局に書類を提出するが、道内一番乗りの申請となりそうだ。（川原田浩康）

電信通り商店街振興組合の活性化事業計画の概要

年度	事業の概要	概算事業費
2011	「ミナミナひろば」の改装や取扱商品拡大	350万円
	「べんぞう商店」の改装や「御用聞き」開始	390万円
	高齢者・障害者向け相談所設置	590万円
	スイーツ製造販売	1290万円
12	「安全安心な食堂・居酒屋」事業	440万円
	産学連携チャレンジショップ	300万円
13	起業支援のチャレンジショップ事業	290万円
	スイーツ企業誘致	170万円

同法は商店街独自の活性化事業を対象にし、事業費の3分の2の補助などが受けられる。道内では札幌や江別市の商店街も準備しているが、電信通りが最も進んでいる。計画の事業費は約4千万円。まちづくりの理念を「お年寄り・障害者と協働・共生する商店街」と定めた。11年度は、空き店舗を使って昨年開いた多目的の「ミナミナひろば」や「べんぞう商店」を改装し、商品拡大や御用聞きサービスの拡大など機能アップを図る。別の空き店舗では住民、特に高齢者・障害者向けの相談所、カフェがある洋菓子の製造販売も予定。秋には帯広別院（東3南7）で収穫祭も開く。12年度は、空き店舗を使い「気軽に利用できる安全安心な食堂・居酒屋」や、大学・短大と共同で商品開発し販売するチャレンジショップの開設を計画。



電信通り商店街が大賞を受賞する大きな理由となった「ミナミナひろば」
=2010年7月

「電信通り」がお店表彰

準大賞に新得・上田精肉店

道による本年度の「街振興組合が商店街部門の大賞に、エゾシカ肉を加工・販売する新得町の上田精肉店（上田邦夫社長）が店舗部門の準大賞に選ばれた。地域経済に寄与する商店街と店の発信を目的に実施し4回目。9商店街・11店の応募があり、両部門で大賞に各1カ所、準大賞に各3カ所が選ばれた。商店街の受賞は管内初。店舗部門では昨年度、満寿屋商店（帯広）が大賞を受けている。電信通り商店街は昨年7月、大通南5の空き店舗を活用し、福祉施設産の野菜などを販売したり、喫茶コーナーがある「ミナミナひろば」を開いたことが受賞の決め手となった。

13年度は、やはり空き店舗を活用し、起業を奨励する。今後、経産局との事務調整を経て、計画を目指す人向けのチャレンジショップ開設、スイーツ企業の誘致を行う。いずれもNPO、福祉法人と役割分担して開設・実施する。最終確定する予定。長谷理事長は「働・食・住がそろい、地域貢献できる商店街、10、20年後も夢を持てる商店街を目指したい」と話している。